

# かぼちゃ・・・Ⅰ

担当者 技能研究員 下條弘貴

試験課題名	品種系統選定試験
目的	本町に適した多収・高品質の品種を選定するため比較検討し普及に資する
期待される成果	優良品種の導入により、生産の安定と経済性の向上を図る。
連携機関	上川農業改良普及センター士別支所 JA北ひびき和寒基幹支所 和寒町蔬菜組合連合会南瓜部会

## 1 供試品種

品種

※えびす(タキイ) くりゆたか(みかど協和) くりほまれ(サカタ)  
 くり大将(トキタ) くり将軍(トキタ) こふき(ナント)  
 ほくとな(雪印) 九重栗イレブン(カネコ) S Q - 0 1 8(雪印)  
 H 2 - 0 0 5(サカタ)

※基準品種

## 2 耕種概要

土 壤 ～ 灰色低地土(埴壤土)

前 作 ～ 越冬キャベツ

播 種 日 ～ 6月4日 定 植 日 ～ 6月25日 収 穫 日 ～ 9月23日

整枝方法 ～ 子蔓2本仕立て 無摘花

栽植密度 ～ 畦幅3.0m×株間0.7m 476株/10a

試験区面積 ～ 0.147a (3m × 4.9m) 7株中両端の株を除いた5株を調査 2反復

## 3 土壌診断結果と施肥量

### (1) 土壌診断結果

(mg/100g)

pH	EC	P2O5	K2O	MgO	CaO	熱水抽出N
6.06	0.107	53.7	43.8	53.1	517.6	5.1

### (2) 土改資材と堆肥 (kg/10a)

堆 肥 ～ 1,000kg

### (3) 施肥内容 (成分量/%)

基 肥 ～ BB肥料S.269 (12-20-10) 6月25日 全層施肥

硫酸カリ (0-0-50) 6月25日 全層施肥

追 肥 ～ 尿 素 (0-0-46) 8月4日 条間施肥

### (4) 肥料の要素量

(kg/10a)

		N	P	K
基 肥	BB肥料S.269	30.7kg	3.68	6.14
	硫酸カリ	5.3kg		2.7
追 肥	尿素	7.69kg	3.53	0
合 計			7.21	6.14
				5.77

## 4 調査項目

生育調査 ～ 播種日・発芽期・発芽率・胚軸長・定植日・初期生育

雄花開花期・雌花開花期・着果節位・着果期・収穫日・成熟日数・草勢・うどんこ病

果実特性調査 ～ 果形・果皮色・肉厚・果肉色

収量調査 ～ 10a当たり収量・収量比・1株当たり平均個数・平均一果重・規格別割合

食味調査 ～ 粉質程度・甘味・食味・乾物率

貯蔵調査 ～ 糖度(Brix)・腐敗率

## 5-1 生育調査

項目		品種	えびす	くりゆたか	くりほまれ	くり大将	くり將軍
播種日			6月4日				
発芽期			6月14日	6月14日	6月10日	6月10日	6月10日
発芽率(%)			97	87	97	97	100
定植日			6月25日				
定植直前	胚軸長(cm)		1.8	2.0	1.7	1.9	2.7
初期生育 播種後58日	つる長(cm)		357.3	322.0	352.4	353.1	289.2
	葉数(枚)		22.7	20.9	20.3	22.4	20.0
	草勢		3	3	3	4	2
	うどんこ(無0~4塊)		1	0	0	1	1
開花期	雄花		7月27日	7月27日	7月27日	7月27日	7月27日
	雌花		7月30日	8月2日	7月31日	7月31日	8月1日
着果期			8月1日	8月4日	8月2日	8月2日	8月3日
9月8日	つる長(cm)		766.8	620.2	927.6	692.1	651.5
第一果 着果節位(節)			11.2	12.6	19.3	13.8	11.6
収穫日			9月23日				
成熟日数			55日	52日	54日	54日	53日

## 5-2 生育調査

項目		品種	こふき	ほくつとな	九重栗イレブン	SQ-018	H2-005
播種日			6月4日				
発芽期			6月14日	6月13日	6月14日	6月10日	6月11日
発芽率(%)			97	97	93	100	100
定植日			6月25日				
定植直前	胚軸長		1.7	2.2	1.5	2.9	2.4
初期生育 播種後58日	つる長(cm)		341.9	296.2	325.4	322.9	292.0
	葉数(枚)		19.4	20.7	20.2	18.1	19.5
	草勢		3	2	5	3	3
	うどんこ(無0~4塊)		1	1	0	1	0
開花期	雄花		7月30日	7月28日	7月27日	7月28日	7月28日
	雌花		8月2日	7月31日	8月1日	8月2日	8月1日
着果期			8月4日	8月3日	8月3日	8月4日	8月3日
9月8日	つる長(cm)		945.7	684.7	701.0	862.8	936.4
第一果 着果節位			19	11.8	13.9	18.3	15.9
収穫日			9月23日				
成熟日数			52日	54日	53日	52日	53日

## 6-1 果実特性・収量調査

項目		品種	えびす	くりゆたか	くりほまれ	くり大将	くり將軍
果形			扁平	扁円	扁円	扁平	扁平
果皮色			緑	濃緑	濃緑	濃緑	濃緑
肉厚	赤道部(cm)		2.51	2.83	3.58	2.89	3.2
	花痕部(cm)		1.81	1.94	2.58	2.03	1.7
果肉色(濃5~1淡)			3	3	3	4	3
10a当たり収量(kg)			1,864	1,990	1,791	1,533	1,177
収量比(%)			100%	107%	90%	86%	77%
1株当たり平均個数			2.2	2.2	1.9	2	1.2
平均一果重(kg)			1.78	1.9	1.98	1.61	2.06
良果割合(%)			76	85	77	72	80
良果収量(10a/kg)			1,417	1,691	1,379	1,104	941
規格別割合(%)	3玉		0	0	0	0	0
	4玉		5	0	16	0	8
	5玉		18	41	32	20	50
	6玉		32	41	21	10	33
	7玉		32	18	16	35	0
	8玉		14	0	11	30	8
	9玉		0	0	5	5	0
10玉		0	0	0	0	0	

項目		品種	こふき	ほくつとな	九重栗イレブン	SQ-018	H2-005
果 形			扁円	扁平	心臓	円筒	扁円
果 皮 色			濃緑	黒緑	緑	黒緑	黒緑
肉 厚	赤道部(cm)		2.7	2.3	3.5	2.4	2.6
	花痕部(cm)		2.0	2.0	2.6	2.4	2.5
果肉色(濃5~1淡)			3	3	3	4	2
10a当たり収量(kg)			1,493	982	1,293	1,493	1,519
収 量 比 (%)			80%	53%	69%	80%	82%
1株当たり平均個数			1.6	1.6	1.4	1.6	2.1
平均一果重(kg)			1.96	1.29	1.94	1.96	1.52
良果割合(%)			79	23	54	57	84
良果収量(10a/kg)			1,179	226	698	851	1,276
規格別割合(%)	3玉		0	0	0	0	0
	4玉		13	0	21	13	0
	5玉		25	0	29	31	0
	6玉		56	0	14	38	24
	7玉		6	31	14	6	43
	8玉		0	31	7	13	24
	9玉		0	19	7	0	10
	10玉		0	19	7	0	0

## 7-1 食味・貯蔵調査

項目		品種	えびす	くりゆたか	くりほまれ	くり大将	くり将軍	
10月 14日	甘味	(強5~1弱)	3.0	2.5	2.8	2.7	2.6	
	粉質程度	(強5~1弱)	3.0	3.2	2.8	3.6	3.8	
	食味	(良5~1不良)	3.0	2.7	2.7	3.2	2.8	
	糖度(Brix)			13.2	14.1	11.9	18.6	15.4
	乾物率(%)			21.8	28.7	24.7	33.5	32.3
12月 10日	甘味	(強5~1弱)	3.0	2.4	2.6	1.8	2.7	
	粉質程度	(強5~1弱)	3.0	3.6	3.1	3.2	3.9	
	食味	(良5~1不良)	3.0	2.6	2.6	2.2	2.9	
	糖度(Brix)			18.6	17.4	17.1	18.0	17.6
	乾物率(%)			25.2	29.1	26.9	28.5	31.2
12月8日	腐敗率(%)		10	10	13	11	10	

## 7-2

項目		品種	こふき	ほくつとな	九重栗イレブン	SQ-018	H2-005	
10月 14日	甘味	(強5~1弱)	2.4	2.6	2.0	1.8	2	
	粉質程度	(強5~1弱)	3.8	3.3	4.3	3.8	3.0	
	食味	(良5~1不良)	2.6	3.0	2.4	2.3	2.3	
	糖度(Brix)			12.4	12.8	15.1	12.1	13.3
	乾物率(%)			31.5	25.6	33.8	29.5	28.9
12月 10日	甘味	(強5~1弱)	2.4	2.3	2.3	2.4	2.6	
	粉質程度	(強5~1弱)	3.3	2.4	4.6	2.9	3.1	
	食味	(良5~1不良)	2.6	2.1	2.9	2.4	2.6	
	糖度(Brix)			19.0	16.6	21.4	16.7	16.8
	乾物率(%)			29.5	21.7	35.4	27	24.2
12月8日	腐敗率(%)		0	7	8	0	16	

## 8 防除歴

殺 虫 剤			殺 菌 剤		
7月18日	アグロスリン乳剤	2000倍	7月30日 8月1日 8月26日	イデクリーン水和剤 コサイド ダコニール	800 3000 1000倍

## 9 試験結果概要

### (1) 生育経過

播種は6月4日に行った。72穴セルトレー、プラグエースを使用した。発芽率は定植直前の6月20日に調査した。くりゆたかは、87%と低めだったが、他は93%を超えており、大きな差はなかった。発芽期は10日～14日とまばらになった。定植は6月25日に行った。

9月23日に収穫を行い、生育日数は52日～55日だった。

追肥は尿素を使用した。つるの根が張ってしまっており、土に混和することができなかった。そのため雨の降る直前に畝間に全層施肥した。

9月8日に行ったつる長の測定では、こふきが945.7cmで最も長かった。次に、くりほまれが927.6cm、H2-005が936.4cm、となった。

### (2) 果実特性・収量調査結果

10a当たりの収量が多かったのは、くりゆたかで、1,990kgであり、唯一えびすを上回った。5玉6玉の割合も82%と高く玉揃いも良く、良果割合も一番良かった。

くりほまれも10a当たりの収量1,791kgと良い結果になったが、玉揃いはあまり良い結果にはならなかった。

今年度から新しく試験を開始したH2-005は皮が黒く、1株あたりの個数が2.1個と着果数は悪くなかったが、小ぶりな玉が多く5玉以上のものはできなかった。しかし、良果率は84%と、高かった。

10a当たりの収量が少ないものは、ほくつとなで982kg、九重栗イレブンで1,293kgとなった。ほくつとなはグラウンドマーク部分のえぐれが目立ち、不良果が多かった。原因として、湿害によるもの、外皮が他に比べ、軟らかいことが考えられる。SQ-018は、良果割合が57%と低いが、斑点細菌病による突起果が多かったためである。九重栗イレブンはキズや、未熟、突起果、変形などで良果率が低下した。

くり将軍も10a当たりの収量が1,177kgと少ないが、くり将軍には肥料が少なかったことが原因と考えられる。

### (3) 食味・貯蔵試験結果

食味試験は、えびすを基準に行った。10月14日に行った1度目の食味検査では、くり大将が一番評価が良かった。極早生なため味がすでに乗っていたのが好評化につながったと考えられる。次いで、えびす、ほくつとなの順になっていた。

12月10日に行った2回目の検査では、えびすが一番良く、続いてくり将軍、九重栗イレブンとなった。くり将軍と九重栗イレブンは、乾物率が高い品種であり、やはり乾物率が高い品種は、キュアリングに時間をかけると、食味が良くなるということがわかった。九重栗イレブンに関しては2回目の食味試験でも粉質が非常に高かった。

糖度は10月では、くり大将の18.6が一番高かった。次に15.4のくり将軍、15.1の九重栗イレブンとなった。基本的に乾物率が高い品種が高い糖度を出している傾向が見られるが、九重栗イレブンは、食味試験の数値では甘味がえびすの3に比べ、2と低いため糖度が高ければ甘いというわけではない。

12月の糖度では、21.4の九重栗イレブンが一番高く、続いて19のこふき、18.6のえびすとなった。九重栗イレブンは食味試験で、総合の食味では評価が良かったが甘味は、2.3、こふきは甘味2.4と高い評価にはつながらなかった。おそらく、糖度が高くても、食べるときの粉質感での、その人の好みによって甘味の感じ方が変わるのではないかと考えられる。

12月8日までの腐敗率では、こふき、SQ-018が0%とまったく腐らなかった。腐敗率が高かったのは、H2-005で16%だったが、全体的に腐敗が少なかった。乾物率が全体的に高かったため貯蔵がきいたと考えられる。九重栗イレブンは腐敗率が8%と低く、食味試験の評価が12月のほうが高くなっていたため遅出しに向いていると思われる。

#### (4) 考察

今年は発芽期が10日～14日とまばらになったが、原因としては育苗時に水を切りすぎたためと思われる。

収量の点では去年に比べ、落ち込む年となった。定植時期に長雨が降り続いた事により、定植が遅れた。また、雨の影響で雌花が落ち、着果数が減少したことが原因として考えられる。ただ、中でもくりゆたか、えびすを始め収量が良い品種もあり、湿害に強い品種と湿害の影響を受けやすい品種が分かれた結果になったように感じる。

味に関しては、2度目の食味検査で、去年に比べ全体的においしいという声が多かった。気候がかぼちゃにとって良いものであったため、乾物率が上昇したと思う。一方9月の収穫時期にも雨が降っていたため、本来乾物率は下がるはずだが、理由は不明である。ただ、8月下旬の雨が去年に比べ少なかったこと、7月から8月の日照時間が去年に比べ長かったこと、8月から9月の収穫日にかけて最高気温と最低気温の温度差が去年に比べ大きかったこと、8月の中旬、下旬が去年に比べ涼しかったため、デンプンの蓄積が進み、乾物率が上がったことが要因であると思う。

今年の優良品種は、収量の点ではくりゆたか、えびす、くりほまれが収量が多く、良い結果がでた。食味では1回目2回目ともにえびすが安定して高評価だった。以上の結果から今年の優良品種はえびす、くりゆたか、くりほまれ、であると考えられた。